事業番号　092

平成２５年行政事業レビューシート　（環境省）

事業名	船舶・航空機排出ガス対策検討調査	担当部局庁	水・大気環境局	作成責任者
事業開始・終了（予定）年度	平成19年度～	担当課室	自動車環境対策課	自動車環境対策課長 大村　卓
会計区分	一般会計	施策名	3. 大気・水・土壌環境等の保全 3-1 大気環境の保全（酸性雨・黄砂対策を含む）	
根拠法令（具体的な条項も記載）	・環境基本法（第16条）及びこれに基づく環境基準の告示	関係する計画、通知等	－	
事業の目的（目指す姿を簡潔に。3行程度以内）	船舶・航空機から排出される大気汚染物質の実態、現在及び将来における環境影響を明らかにした上で、排出ガスによる環境負荷の軽減を図るための規制や対策を実施することにより、船舶・航空機からの大気汚染防止に係る取組みを効果的に推進し、港湾及び飛行場周辺における大気環境の維持・改善に資することを目的としている。			
事業概要（5行程度以内。別添可）	我が国における排出ガスによる環境負荷の軽減を図るための規制や対策に資するため、船舶・航空機から排出される大気汚染物質を実測及びシミュレーション等から推計し、現在及び将来における環境影響の調査・検討を行う。また、船舶・航空機からの排出ガス規制・対策等については、船舶ではIMO（国際海事機関）、航空機ではICAO（国際民間航空機関）において、それぞれ国際的な枠組の中で議論が進められているところであり、国際動向をより詳細に把握するための調査もあわせて行う。			
実施方法	□直接実施　■委託・請負　□補助　□負担　□交付　□貸付　□その他			

予算額・執行額（単位：百万円）

		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求
予算の状況	当初予算	9	11	8	8	9
	補正予算	0	0	0	0	
	繰越し等	0	0	0	0	
	計	9	11	8	8	9
執行額		3	7	7		
執行率（%）		36.5%	66.4%	93.6%		

成果目標及び成果実績（アウトカム）

成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値（　年度）
本事業は、船舶・航空機から排出される大気汚染物質の実態把握及び影響の検証を目的としており、具体的成果（排出量の削減）は、本事業実施中に評価できるものではない。	成果実績		—	—	—	—
	達成度	%	—	—	—	

活動指標及び活動実績（アウトプット）

活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
本事業は箇所数、件数、人数等の指標で評価するものではない。	活動実績（当初見込み）		—	— （　—　）	— （　—　）	— （　—　）

単位当たりコスト	—　（円／　）	算出根拠	本事業は、船舶・航空機からの排出ガスの実測・予測等から、船舶・航空機から排出される大気汚染物質の実態把握及び影響の検証を目的としており、単位当たりの事業コストを算出できるものではない。

平成25・26年度予算内訳

費　目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由
環境保全調査費	8	9	－
計	8	9	

事業所管部局による点検

	項　目	評 価	評価に関する説明
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	○港湾及び飛行場周辺における排出ガス対策は広く国民のニーズもある。また、本事業は対策の推進に資するための検討であり、国による適切な判断が確保される必要があるため国が実施すべき事業である。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	
	明確な政策目的（成果目標）の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○	
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	○競争性のある方法で発注しており、積算から精算の一連の作業が適正な方法で行われている。また、中間段階での支出は、請負者による再委託先の選定において、予め技術的な実施可否を検討し選定するなど、合理的に実施している。
	受益者との負担関係は妥当であるか。	－	
	単位当たりコストの水準は妥当か。	－	
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。（理由を右に記載）	－	
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	○成果について 本事業は、船舶・航空機排出大気汚染物質の実態把握及び影響の検証を目的としているため、具体的成果は、本事業実施中に評価できるものではないが、調査項目については過年度の成果物を活用するなど計画的に実施し、実効性の高い手段で検討を進めている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	－	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 （役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載）	－	

事業番号	類似事業名	所管府省・部局名

点検結果

・平成21年度の行政事業レビューでの予算監視・効率化チームの所見に基づき、排出ガス対策に係る2つの事業（船舶排出ガス（①船舶排出大気汚染物質規制検討調査）と航空機排出ガス（②交通騒音振動低減対策調査の一部））について、平成22年度より統合して調査検討を実施することにより効率的な執行に努めた。（平成24年度も継続。）
なお、本事業は、平成23年度より、「交通騒音振動対策調査検討費」：交通騒音振動対策に係る事業から分割し、「自動車等大気環境総合対策費」：排出ガス対策に係る事業として、船舶・航空機排出ガス対策と自動車排出ガス対策に係る事業を統合し、より一層効率的に執行した。

外部有識者の所見

成果についてわかりやすく説明できるようにすること。

行政事業レビュー推進チームの所見

現状通り

引き続き効果的・効率的な執行に努めるとともに、成果を分かりやすく取りまとめること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り

引き続き効果的・効率的な執行に努め、事業成果については、分かりやすく取りまとめる工夫ができるか検討を行う。

備考

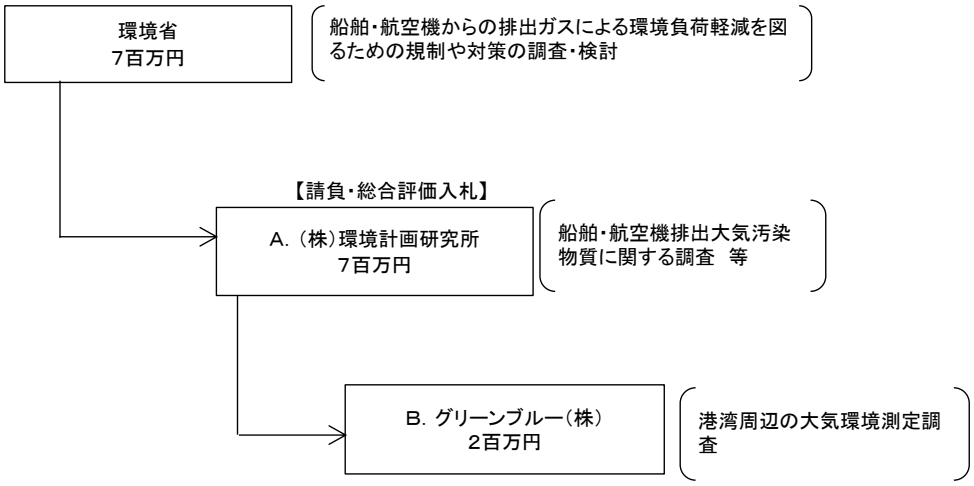
関連する過去のレビューシートの事業番号

	平成22年	067	平成23年	054	平成24年	052

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）
（単位：百万円）

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

①船舶・航空機排出大気汚染物質削減に関する検討



費目・使途
（「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載）

A.（株）環境計画研究所

費 目	使 途	金 額（百万円）
人件費	船舶・航空機排出ガス対策検討調査	3
その他	旅費、借料及び損料、印刷製本費	2
委託費	船舶排出ガス実測調査	2
計		7

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

B.グリーンブルー（株）

費 目	使 途	金 額（百万円）
雑役務費	船舶排出ガス実測調査	2
計		2

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

費 目	使 途	金 額（百万円）
計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 （百万円）	入札者数	落札率
1	(株)環境計画研究所	船舶・航空機排出大気汚染物質に関する調査等	7	2	94

B.

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 （百万円）	入札者数	落札率
1	グリーンブルー（株）	船舶排出ガス実測調査	2	随意契約	